



# キウイフルーツ近縁種のポテンシャル

農学部 アグリサイエンスコース

助教 大野 健太郎

## 研究シーズの概要

日本の農業は、気候変動や人手不足といった、喫緊の重要課題に直面しています。これら課題の解決策の一つとして、栽培品目に近縁な野生種の活用が有効と考えられています。野生種には、栽培種には無い特徴的な性質が様々みられます。東アジアはキウイフルーツとその近縁野生種の原産地であり、猛暑や土壌湛水に強い温暖化に適応した種、人工授粉を必要としない省力生産が可能な種、食物アレルギー原因物質をほとんど含まない種なども存在します。



写真1. キウイフルーツと近縁種の果実 (左)

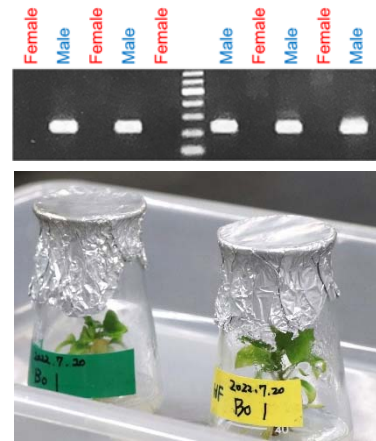


写真2. PCRと組織培養 (右)  
近縁種×バイオテクノロジーの融

島国である日本には、準固有種といえる野生種も分布しているため、これらの遺伝資源を有効活用できれば、日本発イノベーションとなり得ます。しかし、野生種は食味が悪いなどの理由があり、すぐに利用できるわけではありません。これら野生種の特性格評価やそのメカニズム解明、種間雑種の特性格解析を通じて、生産現場の課題解決につながる新たな可能性を探っています。

【利用が見込まれる分野】 農業、食品、加工、健康機能、緑化、観光園

## 研究者プロフィール

大野 健太郎 / オオノ ケンタロウ



メールアドレス ono.kentaro.3a @ kagawa-u. ac. jp  
 所属学部等 農学部 アグリサイエンスコース  
 職位 助教  
 学位 博士 (農学)  
 研究キーワード 果樹、雑種、結実、花粉、ストレス耐性  
 ホームページ <https://sites.google.com/view/ono-lab-pomology/home>

本研究に関するお問い合わせは、香川大学産学連携・知的財産センターまで

直通電話番号：087-832-1672

メールアドレス：ccip-c@kagawa-u. ac. jp

問い合わせ番号：AG-26-001